

第72回九州地区獣医師大会が開催されました !!

令和5年9月10日（日）、第72回九州地区獣医師大会が「かごしま県民交流センター」において開催されました。

この大会は、九州各県の獣医師が一堂に会し、獣医学の最新知見、情報の交換を目的として、産業動物臨床、小動物臨床、畜産振興、獣医公衆衛生及び動物福祉・愛護に関する獣医学の研究報告を行って、相互の技術研鑽を図る機会となっています。

来賓として、森山裕衆議院議員、宮地拓馬衆議院議員、塩田康一鹿児島県知事及び下鶴隆央鹿児島市長が出席されました。

【田崎拓昭大会委員長（鹿児島県獣医師会長）：挨拶】

私ども獣医師会は、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会につながる。」との考え方（One World-One Health）を活動指針としています。

現在、国内では高病原性鳥インフルエンザが相次ぎ、またイノシシ・豚の豚熱の発生及び重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は拡大傾向にあり、行政、関連団体が連携し防疫体制を強化しています。こうした動物由来の人獣共通感染症に迅速対応するためにも「ワンヘルス」の実践体制の早急な構築が必要となっています。

本大会において、「ワンヘルス理念のもと人獣共通感染症と災害に備え、人と動物が共存する豊かな社会を実現しよう」をテーマに掲げ、九州一丸となって取り組むこととしています。（一部抜粋）





【藏内勇夫日本獣医師会会長：挨拶】

去る6月27日、本会の第80回通常総会におきまして、私が引き続き日本獣医師会の会長を務めることとなり、さらに、砂原和文、鳥海 弘、栗本まさ子副会長及び境 政人専務理事が選任され、また、各地区、職域等理事並びに監事がそれぞれ選任されたことをご報告いたします。

さて、私たちの生活は長らくの間、新型コロナウイルス感染症によって制限されてまいりましたが、このように多くの皆様方がマスクを外し、コロナ禍以前の生活に戻りつつあることは非常に喜ばしいことであると感じております。今後、この新型コロナウイルス感染症のような人と動物の共通感染症のまん延を防ぐためにも、これまで本会が提唱してまいりましたワンヘルスを推進し、ワンヘルスの理念である、「人と動物の健康と環境の健全性を一つの健康と捉えて一体的に守る」ことを目指していくことが重要であると考えております。

我々は昨年11月、「アジアにおけるワンヘルスアプローチ」をテーマとして福岡県で開催した「第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会」において、「アジアワンヘルス福岡宣言2022」を採択・公表することができました。また、G7広島サミットに先立ち開催された「G7長崎保健大臣会合」では、その成果として「G7長崎保健大臣宣言」が公表され、この中においても大きく取り上げられるとともに、これを受けて政府は、6月に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」におきましても、ワンヘルスの推進を盛り込む結果となりました。今やワンヘルスの取組みは日本国内だけでなく、世界的にもその重要性が強く認識されておりますので、我々は一層、ワンヘルス活動を推進することによって、皆様方が安全な環境の下で安心して暮らしていくことができるよう、引き続き取り組んでまいりたいと思います。

また、現在、我々にとって最も重要な課題である販売用犬・猫へのマイクロチップの装着・登録に係る対応につきましては、これまでに環境省や厚生労働省と進めてまいりました協議結果を踏まえ、飼い主はもちろんのこと、地方獣医師会や会員獣医師の皆様にとって有用かつ利便性の高い制度とするべく、動物愛護管理法の早期改正による抜本的な改善に向けて、さらなる取組みを進めてまいります。

（一部抜粋）

日本獣医師会会長挨拶の後、功労者表彰が行われ、藏内勇夫日本獣医師会会長から「日本獣医師会会長褒賞」の表彰状と感謝状が贈られました。

受賞者を代表して、表彰状は熊本県の小澄正敬獣医師、感謝状を福岡県の東田周三獣医師が受賞されました。



藏内会長と小澄獣医師



藏内会長と東田獣医師

2023年9月12日
福岡ワンヘルス協議会・事務局